

メロンの栄養診断で肥料のムダ無くします

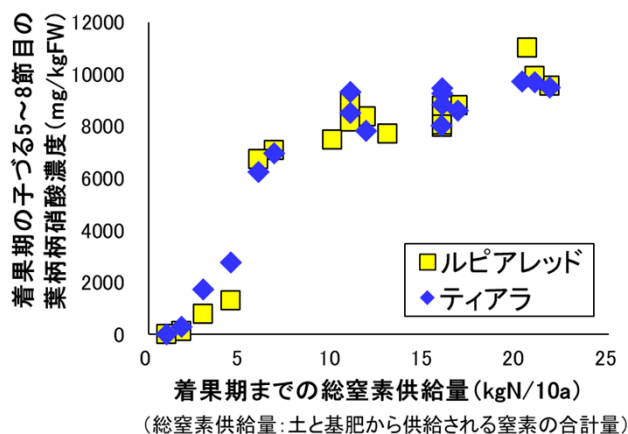
概要 Abstract

- ・定植約6週後（着果期）の葉柄の硝酸濃度が9,000mg/kg FW以上であれば、その後の窒素施肥（分施）は要りません！
- ・ハウス栽培の無加温半促成作型で品種「ルピアレッド」と「ティアラ」に使えます。

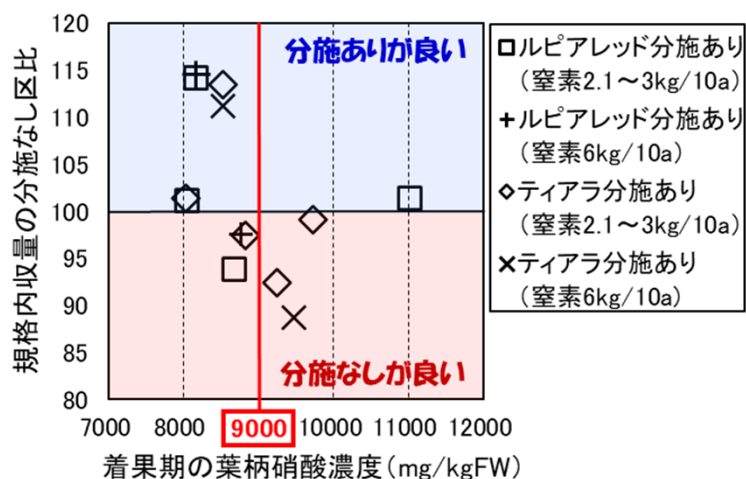


成果 Results

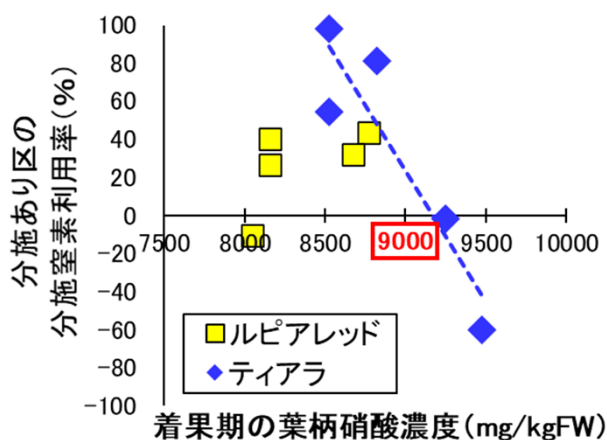
- ①葉柄硝酸濃度は着果期の子づる5～8節目を測るのがベスト！



- ②葉柄硝酸濃度が9,000mg/kg FW以上なら分施をしなくても収量は減らない！
分施をしない方が収量が高い場合もある！



- ③品種「ティアラ」は葉柄硝酸濃度が9,000mg/kg FW以上では分施を利用できていない

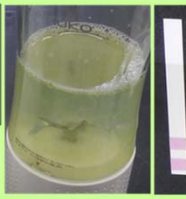


葉柄硝酸濃度の測定方法

①着果期の晴天～薄曇りの午前中にハウス全体から子づる5～8節目の葉柄を採取して小さく切る(4株程度から各1本)。

②切った葉柄2gと水198gをジュースーにはかり取る(計200g)。

③固形物がなくなるまでジュースーにかけ(2分程度)。上澄み液に試験紙(一)を浸すと、硝酸に反応して約1分でピンク色に発色する。



④発色した試験紙をRQフレックス(↓)の測定部に挟んで測定する。表示値を100倍した値が葉柄硝酸濃度。



普及 Dissemination

本課題は、北海道原子力環境センターの委託事業により、電源立地地域対策交付金を活用して2019～21年度に実施しました。

連絡先 Contact

農業研究本部 企画調整部
原子力環境センター駐在
0135-67-7620
central-agri@hro.or.jp